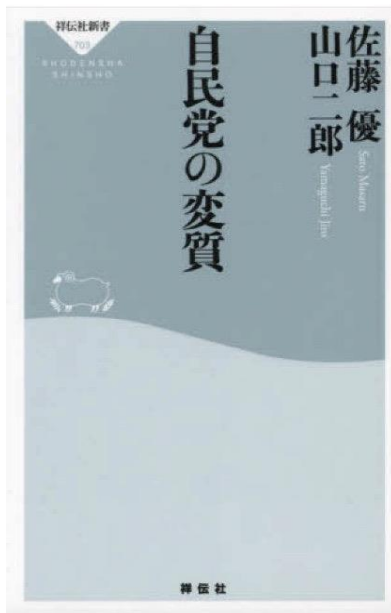


タイトル「自民党の変質」、(全 254 ページ)

発行所: 祥伝社

発行: 2024 年 9 月 10 日 初版第 1 刷発行



著者: 佐藤優(サトウ マサル)、山口二郎(ヤマグチ ジロウ)

元外務省の佐藤優氏と、政治学者の山口二郎氏の対談形式の内容

自民党の変遷を解説。政策実現を優先する公明は、自民を含め与党に留まる(p.248)

内容

第一章 日本政府のトランプ対策

佐藤: ”もしトラ”から”確トラ”へ。岸田首相は 2023 年 9 月 19 日の国連総会での一般討論演説で、「民主主義」の言葉を使わず、「人間の命、尊厳」を代わりに発した。

山口: 防衛費増額の圧力

佐藤: 予測不能な事態が起きる。防衛予算には「箇所づけ」がない。(防衛予算に細目がない)

山口: 国会の機能不全。5 年で 43 兆円の防衛予算が国会でコントロールできない。

佐藤: 弱体化するアメリカ。

佐藤: トランプ復帰で、世界は安定する

トランプの単純な方程式「脅威＝意思 × 能力」

北朝鮮には ICBM の「能力」を有する。

北朝鮮の「意思」を極小にすること、つまり金正恩と友だちになることを志向。

日本では「戦略的互惠関係」に相当

第二章 もはや保守政党ではない

山口: 裏金問題は「巨悪」にあらず

佐藤: なぜ検察は汚職に踏み込まないのか

佐藤: 深海魚のような政権

山口: 疑惑追及を無力化した安倍晋三元首相

佐藤: あの時、政権交代の可能性があった

山口: なぜ民主党は短命に終わったか

佐藤: 民主党政権でなされた転換

山口: 福島瑞穂党首の罪。鳩山政権が崩壊

山口: 現代版「広義国防」が必要

佐藤:台湾有事における沖縄
山口:政治家の劣化
佐藤:政治家から迫力が消えた
山口:派閥の変質
山口:はたして保守政党と言えるか
佐藤:エンペラーとキング。複数領域を統治しているのがエンペラーで、エンペラーは日本だけ。日本に
とっての外部は、アイヌと沖縄

第三章 岸田政権が壊したもの

山口:安倍長期政権の正体。東日本大震災によって政治への期待値が下がった(生存できていることに感謝)
山口:冷戦リベラル」とは
佐藤:学術会議問題は”もらい事故”
山口:宏池会幻想
山口:擬似的冷戦構造
佐藤:消去法で選ばれた岸田文雄総裁
佐藤:派閥の効用
山口:派閥の脱個性化
佐藤:「岸田おろし」は起きない
佐藤:もはや自民党ではない!?
山口:衆議院解散を匂わせた真意
佐藤:顕教と密教
山口:家産制国家への逆行
佐藤:プーチン大統領と岸田首相の共通性
拡大した家族としてのロシア国家(プーチン)
当初は「こども庁」を「こども家庭庁」とした(こどもは家庭を基盤として成長する)

第四章 自民党の本質

山口:自民党の誕生
山口:吉田茂の”大仕事”
佐藤:余力を見せつけた情報参謀。占領軍に対して、日本には未だ戦闘する余力ありと見せつけた
佐藤:外務省は右翼的
山口:自民党は社会党によって発展した
佐藤:日ソ国交交渉の舞台裏
佐藤:ダレスの恫喝。日ソ交渉に対して、「ダレスは全くひどいことをいう。もし日本が国後、択捉をソ連に
帰属せしめたなら、沖縄をアメリカの領土にする」
山口:石橋湛山政権が続いていれば
山口:岸信介政権と日米安保条約
佐藤:もうひとつの闘争。1960年の三池争議で、総評が敗北
山口:自民党の黄金時代
山口:進む制度化と政務調査会。行政が行うべき仕事を政党が担う(日本のみ)。自民党内の政務調査
会(14の部会と34の調査会、そして25の特別委員会から構成)
佐藤:沖縄返還をめぐる密約
山口:党内抗争
山口:強運の人・中曽根康弘
佐藤:官僚とスキャンダル。「自殺の大蔵、汚職の通産、不倫の外務」。(金を受け取らない役人に対し
て)経世会の政治家は「もう来なくていい」が露骨
佐藤:利益共同体としての野中広務と鈴木宗男
山口:自民党最大の窮地。リクルート事件、東京佐川急便事件、金丸事件
山口:生き延びた自民党

佐藤:政治とワイドショー。杉村太蔵(小泉チルドレン)、じゃじゃ馬の田中真紀子と変人の小泉純一郎のケミストリー

山口:小泉純一郎政権が長期政権になった対外要因 9.11 以後のテロとの戦い、北朝鮮への電撃的な訪問

佐藤:”死ねなかった”外交官 小泉訪朝時の「小さな約束」である、日本に帰国した拉致被害者を二週間後に北朝鮮に戻すことを守れなかった責任を取り、田中均(外務省アジア太平洋局長)が辞任せずに、北朝鮮を攻撃する側に転じた。

第五章 自民党の息の根を止める政党

山口:岸田政権への退場勧告

佐藤:公明党は怒っている 自公の間で大きな軋みが生じている。

山口:「反政党」の時代 「〇〇嫌い」で人を束ねる

佐藤:光と闇 移民2世が非合理的な理由により排除されている

山口:「戦争の時代」の政党

佐藤:野党再編と維新の会 公明党と維新の溝

佐藤:除名か、離党か

山口:共産党の限界

佐藤:共産党『八十年』と『一〇〇年』の違い

佐藤:公明党議員の自民党化

山口:都政に関心のない都知事!?

佐藤:自民党重鎮(森喜朗)から見た小池百合子

山口:小池新党の可能性

(1)改革政権再構築 立憲民主党+国民民主党

(2)右派連合 液状化した自民党に小池さんの新党が救命ボート、
あるいは、維新の会+日本保守党+参政党+自民党右派による新党(ネオファシズム)

(3)穏健保守連合 (2)の裏返し、自民党リベラル派+立憲民主党+公明党

第六章 激変する国際情勢のなかで

山口:崩れゆく世界秩序。戦時下の有事体制では行政権が優位に立ち、究極的にはファシズムに行き着きます。

佐藤:日本外交の退却戦。既に、北方4島から2島に、竹島問題を言わず、尖閣諸島を実効支配できていない状況。相手と正面向きでスクラムを組みつつ、じりじりと引いてゆく。それができるかどうか、日本外交の課題。

佐藤:ビジネスとしての武器輸出。現在 2 億8千万人の人口が21世紀末に 5 億人を超えるインドネシアが狙い

山口:人口八〇〇〇万人時代

佐藤:ローカルの力とマイルドヤンキー

山口:炎上した自民党青年局の宴会 @和歌山市での乱痴気騒ぎ

佐藤:今日のウクライナは、明日の日本か。台湾海峡の武力衝突が沖縄に波及して日中戦争になった場合、アメリカが地上軍、空軍を派遣する可能性は低い。ウクライナに対するアメリカのように、日本には武器の供与に留まるのではないか。

山口:保守政党・自民党の淵源

山口:イタリアの政党との類似。自民党は、権力党であり続けることが究極の拠りどころ。

佐藤:自民党は消滅するか

山口:自民党の未来は、日本人の未来。大学生時代にコロナ禍を体験した若者は考え方がしっかりしている。自民党に絶望しても、政治に絶望するすることはないと信じます。

おわりに——二〇二四年は大きな転換点(山口二郎)

知見:政策実現の糸口は自民党内の政務調査会(14の部会と34の調査会、そして25の特別委員会から構成、2024年7月現在)p.115-156